

早春対談

後藤厚生労働大臣 に聞く

日身連 会長 あべ かず ひこ 阿部 一彦 × ごとう しげ ゆき 後藤 茂之 厚生労働大臣

日身連

発行所
社会福祉法人
日本身体障害者団体連合会
(中央障害者社会参加推進センター)
発行人 阿部 かずひこ
東京都豊島区目白3丁目4の3
デアダンクビル4階
TEL 03-3565-3399(代)
FAX 03-3565-3349
<http://www.nissinren.or.jp>
Japanese Federation of
Organizations of the
Disabled Persons (JFOD)
年間購読料 正会員1部 300円
非会員1部 1000円

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大からすでに2年余りが経ちます。コロナによって、大きく変化してきた私たちの日常と、それを取り巻くさまざまな課題について、また、2020東京オリンピック・パラリンピック大会を契機として、どのような変化を社会に期待するのか、後藤大臣にお聞きしました。

なお、新型コロナウイルス感染防止の観点から、対談は文書の交換をさせていただき進めました。後藤大臣をはじめ、関係者の皆さまに心より御礼申し上げます。

厚生労働大臣に就任されて

阿部：ご公務のお忙しいなか、このようなお時間をいただきまして、誠にありがとうございます。後藤大臣におかれては、衆議院厚生労働委員長や新型コロナウイルス感染症対策本部座長等を担われ、私たち障害者団体としては、一層の障害者施策の促進に期待申し上げます。

そして、このように早春対談が実現できたことに心より感謝申し上げます。

後藤：厚生労働大臣を拝命し、国民の生活を生涯にわたって支える厚生労働行政を担当することとなり、その重責に身の引き締まる思いです。

就任直後から新型コロナウイルス感染症の感染拡大に対応した医療提供体制の構築など国民の皆様の安全、安心の確保に万全を期すべく努力してまいりました。

また、「新しい資本主義」の実現に向けて、成長と分配の好循環につながるよう、社会保障の機能強化を図るとともに、障害福祉職員を含めた現場で働く

方々の賃上げを行い、持続的な賃金上昇と消費拡大に取り組みでまいります。

障害福祉の現場の方々には、新型コロナウイルス感染症による様々な影響が生じている中で、継続して支援を続けていただき、大変感謝しております。

現在、厚生労働省では、障害者総合支援法の見直しに向けた議論を進めており、障害のある方ご本人の願いをできる限り実現していけるよう、支援の充実を図っていききたいと考えています。

コロナ禍での障害者を取り巻く環境について

阿部：新しい年を迎えて、また、本年は日本の障害者権利条約の国別審査が行われる予定です。気持ちは新たに取り組んで参りたいと思っております。

さて、新型コロナウイルス感染症の感染拡大から2年余りが経ちます。私たち障害者団体を取り巻く環境は厳しい状況が続いています。団体運営にも支障をきたしている状況が見受けられます。事業活動として、会員